

要旨

2015年12月16日に決定した。このアメリカの金利が引き上げられるにあたって、アメリカの金利引き上げがいつ行われるのかという予想が、今年1年間投資家の間で盛んに行われ、注目を集めていた。そこで、本論文ではアメリカの利上げ予想が実際の為替レートの変動にどのような影響を与えているかを利子裁定式と日経新聞の為替・金融記事を用いて分析を行おうと考えた。

本論文は以下のような流れで構成される。

I. イントロダクションでは、研究動機や論文の分析目的と分析方法の流れを簡単に説明した。

II. アメリカの利上げの背景では、アメリカのサブプライムローン問題による不況から現在の経済状況を説明する。アメリカはサブプライムローン問題により不況を迎えた。しかし、量的緩和政策によりアメリカの経済は回復を続けた。そして、現在アメリカの株価はサブプライムローン問題以前の水準より高い数値となった。そのため、現在アメリカの株は株価バブルが懸念されている。このことを受け、アメリカは利上げを行うことにより金融引き締めとともに、金利機能の正常化を行うと予想されている。

続くIII. 利子裁定式において、日本の元利合計とアメリカの元利合計が等しくなるように為替レートが変動することを説明し、利子裁定式がどういう式で表すことができるのかを解説した。また、日本とアメリカの金利差の変化が期待為替レートの変化率であることを証明した。

IV. 為替レート決定の仕組みにおいては、金利差が変化をしたとき実際の為替レートがどのように変化をするのかを利子裁定式を利用し解説した。

次のV. 実証分析においては、アメリカの利上げ予想が実際の為替レートの変動にどのような影響を与えているかを利子裁定式と日経新聞の為替・金融記事を用いて分析した。

その結果、VI. コンクルージョンにおいて、アメリカの利上げ予想は予想為替レートの変動に影響を与え、アメリカの利上げが取り上げられた月は為替レートの変動額も取り上げられなかった月と比べ大きい傾向があると考えられことがわかった。